

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200125		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム山梨小原西		
所在地	山梨県山梨市小原西641-7		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	令和元年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全国に約300カ所の拠点でグループホーム事業の展開をしており、県内に7棟の事業所があります。認知症のケアのリーディングカンパニーを掲げご入居者様が安心して楽しく過ごせるよう日々職員は笑顔を大切にしたり関わっています。認知症状の緩和のため、タクティールケア認定を職員が取得し日常的に行える体制を整え、入居者様の不安を安心に変えその人らしい生活支援に努めています。また、地域行事へのお誘いあり地域住民として参加しご近所との関わりに努めています。H30年5月から共用デイサービスを開始しより一層の認知症ケアに特化した事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は全国に300カ所を超える拠点を有する会社組織であり、山梨県内には7カ所の認知症対応のグループホームがある。当事業所は畑や果樹園、住宅等に囲まれた静かな環境にあり、2階建て2ユニットで通所も共有している。毎朝、全職員で会社の理念を唱和しているがそれとは別に「その人が送りたい生活を送れるように」を事業所独自の理念に掲げ、職員の目に触れるところに掲示して共有している。市からの委託事業としてほっとスペース事業やオレンジカフェを開催したり、認知症サポーター講座に職員が参加して協力する等行政や地域との関わりや連携に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム山梨小原西**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（たいよう）	ユニット名（にじ）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>1. 理念に基づき評価</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で運営理念を唱和している。ホームビジョンも目の付きやすい所に掲示し共有している。	運営理念を朝礼時、唱和し共有している。	会社としての理念を毎朝唱和している。これとは別に事業所独自の理念を掲げて、全職員の目に触れる場所に掲示し、日々のケアに繋がるように意識づけをしている。利用者一人ひとりの生活を大切に、「その人が送りたい生活」を提供することを目標としている。	事業所理念を職員間で共有するだけでなく、外部の人の目に留まるようなところに掲示して事業所の理解を得ることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会に参加したり、お祭りに参加している。ホーム駐車場を、お神輿の休憩所として提供し入居者様と一緒に気分を味わっている。	散歩、イベント時等、地域の方との会話やコミュニケーションを行い交流を図っている。15周年記念にご近所へお赤飯を配り感謝を伝えた。	自治会の回覧版等を隣に住んでいるオーナーが回してくれるので、祭りや運動会等の情報が得られ地域行事に参加したり、事業所を休憩所として提供し、地域住民との交流の機会が得られている。また、ボランティアのサークル活動やサロンに参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市のほっとスペース事業を委託され、認知症カフェを開催している。担当制になっていて、年2回は必ず実施している。	グループホームとしての相談や認知症の理解など認知症サポーター講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催している。行政、地域住民、ご家族様等が参加し意見交換を行っている。	運営推進会議を開き、意見交換を行っている。ヒヤリハットの活用や他事業所の取り組みなど参考意見を頂くなどサービスの向上に活かしている。	2か月に1回、27日の午後6時半からと決めて、開催している。区長、民生委員、市担当者、包括センター、家族、地域住民（オーナー）、管理者、ユニットリーダー等が出席し、事業所の報告、行事に関することをはじめとして、研修方法や職員の人材育成等についても意見交換している。	地域にこの施設があることが十分理解されていないので、運営推進会議をととして、地域の人たちに施設の存在を知ってもらい、住民と連携した防災対策の実施や地域ボランティアとの繋がりを深めていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での情報共有、市から委託されているほっとスペース事業を行い関係性の構築に努めている。	日頃連絡を取り合い、共有している。包括からの依頼で認知症サポーター講座を共同で開催した。	市の委託を受け、ほっとスペース事業やまちの駅でオレンジカフェを開催している。認知症サポーター養成講座や福祉大学での講座開催、キャラバンメイト、市が開催する認知症関連会議や講座に職員が参加し、講師として協力することもあり、情報交換や連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁ずの対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内会議で身体拘束についての研修を行っている。3ヶ月ごとにチェックリストで確認を行い身体拘束廃止委員会で話し合いを行い、議事録を全職員で共有し実践している。	全体会議時、研修課題にして各スタッフの意識を高めている。また、ケアチェックシートを活用しスタッフ同士で振り返りを行うなどの取り組みをしている。	職員研修を3か月に1回開催し、身体拘束、虐待、不適切行為についてチェックリストを使って確認し、全体会議で協議している。玄関、フロアの出入り口は施錠しないで、利用者の動きから察知して、散歩に誘う等の対応をし、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内会議で高齢者虐待についての研修を行っている。3ヶ月ごとにチェックリストで確認を行い身体拘束廃止委員会で話し合いを行い、議事録を全職員で共有し実践している。	全体会議、エリア合同研修等において議題にし意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内会議でプライバシー保護・権利擁護についての研修を行っている。	会議等において課題にし理解を深め意識している。外部研修あれば周知し希望者は参加し皆で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に入居までの流れ等説明している。改定時には事前に連絡し内容を伝え、同意書にて確認をとっている。ご家族様に対し安心していただけるよう努めている。	理解し同意をしていただけるよう時間をかけ説明をしている。また、言いやすい環境作りにも努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 ( たいよう )	ユニット名 ( にじ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員からご家族様へ「何か気になることはありませんか」等声をかけ話しやすい雰囲気作りに努めている。毎年、ご家族様アンケートを実施し意見を募り、要望意見は会議時共有し、ユニットごりリーダーが中心になり改善に努めている。	お客様アンケートを毎年実施している。昨年と比較し改善の有無を評価したりサービスの向上に努めている。アンケート結果は運営推進会議で伝え、意見を頂いている。	年1回会社としてのアンケートを取り利用者や家族の意見、要望に応じている。面会時には声を掛けて話しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者からは食事に関する要望が多い。アンケート結果は運営推進会議でも報告し、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を定期的に行ったり、会議時等に様々な意見提案を聞き取り業務改善等を行っている。	毎年、職員アンケートを実施している。管理者による個人面談を定期的に行いスタッフの意見・発言が出来る環境を整え、働きやすい職場作りを努めている。	個人面談を定期的に行ったり、毎年職員アンケートを実施して、意見や要望を聞き取る機会がある。職場環境や業務改善に繋がる提案は本社も含めて検討し実現できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、個人面談時などで現状と今後についてなど話せる環境作りを努めている。	本社からの通知などは共有し働きやすい環境作り、やりがいを感じる職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を活用し、職員一人一人の向上を行っている。一人ひとり目標を決め、課題に取り組む面談時で評価しながら成長できるよう取り組んでいる。	ホーム内はもとより、外部の研修への案内等情報共有を行い参加できる環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほっとスペース事業等で市内の事業者と交流を持ち、互いに参加したりしている。同法人の合同研修、グループホーム協会の研修に参加しホーム外の人達と交流の機会を設け質の向上に努めている。	管理者は外部との情報交換や地域交流に向き、職員に周知しサービス向上に努めている。勉強会への参加を行い、ホーム以外の関りから情報を得、質向上を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居審査等を行い、入居者様の情報共有を行う。入居後は日々の生活からアセスメントし、出来ることの継続・出来るような事への支援など安心して過ごせる環境作りを努めている。	入居審査により生活状況のアセスメントや生活歴の収集を行い、スタッフ内で共有している。入居後はその方の発する言葉に耳を傾けその意味合いに対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の要望を聞き取り、サービス内容に反映している。面会時は「何か気になることはありませんか？」と声をかけている。	施設での見学時にご家族が抱えている不安事や、これからご本人様のために望むことを話せる環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成し、ご家族様に内容の確認をして頂きご本人様にとって無理のない最適な支援になるよう努めている。	ケアプラン作成後、介護支援専門員・管理者が確認し最適な対応を実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	語尾を上げ質問形式での問いかけなど、入居者様が選択できるような声掛けをしている。職員は入居者様同士の関係作りのため、家事仕事など会話をしながら行うようにしている。	お願いや誘うのではなく、入居者様がやりたい、やってみたいと自然に自発的に動ける環境作りを心掛けている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( たいよう )	ユニット名( にじ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月職員がお便りを書き、状況を伝えている。面会時などは家族に要望など確認している。会話するとき、あえて家族の名前を出したり、面会時互いに楽しく会話ができるよう支援している。	毎月ご家族様にお便りにて様子を伝えている。面会時には、エピソードとして伝えるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好きだったものを家族から聞き、その場所へ行ったり記憶に働きかけ今までの習慣が継続できるよう支援している。	ご近所やお友達の面会時は、居室でゆっくり過ごせるようにしている。昔のアルバム・写真を見ながら話題の提供を行っている。		利用者や家族からこれまでの生活の様子を聴き取り、月命日に墓参りしたり、馴染みの食堂に行ったり、家族に電話することもある。友人や近所の方が面会に来た際は、昔のアルバムを見ながら話題提供する等、その人にとって馴染みの関係が継続されるように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や人柄などを考慮し席や外出時等交流が持てるように工夫している。スタッフはあくまで、橋渡し役であり入居者様様が主役であるという認識を持ち支援している。	入居者様同士の関りから、スタッフが共有し事前に仲介したり、話題を振ったり、会話を変えたり等行い関係性の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設探しをしたり、ご家族様やご本人様が困らないように努めている。	他施設に移ったりした時は、ご家族様に了承を得て会いに行ったり相談員と情報を共有したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような生活をしたのか入居前よりご家族様や関係者・ご本人様から話しを聞きだし、入居後も入居者様の会話等から探り担当者がユニット会議時などで提案したり確認したりしている。	会話の中から想いや意向を感じ取っている。困りごとはないか、不安はないかなども会話の言葉からくみ取りご家族と共有し入居者様の気持ちを大切に聞いている。		入居前の生活の様子を本人、家族、関係者等から聴き取り、入居後もどのような生活を希望しているか把握するとともに日頃の会話や表情、言葉から本人の気持ちや願いを汲み取るようにしている。ユニット会議時に確認や協議し、職員間で共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りをし、共有している。好きだった場所など物を継続できることは継続している。入居後は、ご家族に聞いたりその方の人物像を大切にしている。	担当のケアマネージャーやご家族から話しを聞いたり入居者様を受け入れるようスタッフ同士で共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情だったり、会話の中より探り、一人一人のペースに合わせた生活が出来るよう支援している。入居後、現状の把握に努め見極めながら対応の統一を行っている。	記録したり、申し送りをする中でスタッフ同士で共有しケアの統一を行い、無理なく生活できる環境作りを努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議や日々の少しの変化など記録に残し情報共有や支援方法を考えている。気持ち等はリーダーに伝え、その情報をもとにケアマネージャーは聞き取り等行っている。	毎月のモニタリングから、成果課題改善を会議時共有し入居者様が困ることのないよう努めている。		月1回のユニット会議には夜勤者以外は出席し、コメントシートに記入した内容は職員間で共有し、日々の支援に活かしている。入居時は暫定的なケア計画を作成し担当、管理者、リーダーでモニタリングしている。モニタリングは月1回、アセスメントは3か月に1回実施している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有をしっかりと行い、変化や気づきを大切にしている。一人ひとりにあった観察ポイントや支援方法など行い、ケアの統一に努めている。	ヒヤリハットから気付いたことなどスタッフ同士で共有し、その入居者様に合った対応を行っている。ユニットリーダーから職員に確認したり現状の把握に努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいよう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの性格に対しその人が求めることを支援している。入居者様のやりたい事など会話から聞き取り計画し実行している。	ユニット名(にじ) その時々で発生するニーズに対応できるよう、朝礼時などホーム全体で調整が出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心快適に地域に暮らせるように地域行事に積極的におひさまなどに参加し地域の関りを増やしている	市で行っている行事に参加したり、散歩を通じ地域の方と会話したり近くのコンビニへ出向き地域住民として過ごせるよう意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を大切にスタッフ同士連携し支援している。	家族と連絡を取りながら早めの受診を行っている。往診もあるが、ご家族やご本人の要望により主治医との関係を継続し受診対応を行っている。	本人や家族の希望に沿った医療を受けられるように支援している。半数以上の方が訪問医療をうけ、その他の方はかかりつけの病院を家族の付き添いにより受診している。家族の都合が悪い時は職員が対応している。受診時は介護サマリーで本人の状況を伝え、結果は口頭で聴いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることはスタッフ同士共有し記録に残したりして訪問看護時伝えている。内容によっては受診相談や助言など頂きケアに活かしている。	毎週金曜日、訪問看護時日々の気付きなど伝えながら相談等行い健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中などスタッフが病院へ行き主治医や相談員に状況確認を行い、スタッフ間で共有している。入院になった場合は、介護サマリーを渡し入居者様やご家族様の負担にならないよう心掛けている	入院時は病院へ面会に行き、状態の確認をしたり、関係者と連絡を取り合いスムーズに動けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からご家族の想いやご本人様の意思を尊重し支援にあたっている。契約時、入居時にホームで出来る事出来ない事を伝えている。その状態になったら、若しくはなりそうな場合は話し合いの場を作り互いに納得できるよう努めている。	ご家族に現状を説明し、今後どのようなことを望んでいるのか等確認しながらそれに応じた支援が出来るよう努めている。	入居時に、本人や家族に重度化や終末期についての意向を確認したり事業所の状況等について説明している。本人の状況が変化した場合話し合いの場を設けて家族が納得できるような対応を考えている。家族が宿泊できるスペースがあり、週1回訪問看護のケアを受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを掲示したり、ホーム内で研修を行い、緊急時の行動がとれるよう努めている。	事故急変時のマニュアルの実践、研修を行い急がず慌てず冷静に無駄なく動けるようシミュレーションを各々で行い確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内研修で体制を確認したり、年2回避難訓練を実施している。ホーム外に出掛ける時なども、スタッフ間で連携をとり避難を意識した誘導を行っている。	年2回の避難訓練を実施し、普段から外出等、速やかに行えるよう考え行動している。地域との協力体制は、運営推進会議時に地域住民、自治会長と話をする場を作り確認など行い、避難に備えている。	年2回の避難訓練を実施し、1回は夜間を想定している。災害時の誘導を意識して、普段から利用者同士がベアになって移動するよう支援している。消防署の指導を受け消火器や消火栓の使い方全職員が体験し、ヘルメット、備蓄品等を備え、運営推進会議で地域との連携を協議をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームにNGワードがあり、言葉や声掛けに意識した取り組みをしている。ドアは閉めプライバシーに配慮している。	入居者様それぞれの性格等把握し、混乱を回避するため職員は日頃から情報共有し、変化に対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、それぞれの利用者へ寄り添った支援を心掛けている。トイレ誘導、居室の出入り、呼称等には十分配慮し、言葉の掛け方やケアの仕方を職員間で共有するとともに、日頃から利用者の表情や言葉にも留意している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(たいよう)	ユニット名(にじ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方はご本人の想いや希望を出るだけ早く行動できるよう掛けている。家族の相談が必要な時も早めに連絡を取り合っている。	普段の会話の中で選択できる人には自己決定できるように働きかけている。スタッフの決めつけや思い込みはせず、その背景を探り対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	静かに過ごしたい方、活動的に過ごしたい方などそれぞれに合った声掛けや関わりを行い、入居者様の希望に沿った活動を支援している。	職員都合になってしまうこともあるが、一人一人の希望に沿って支援している。生活パターンを皆で共有出来るように会議時など確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	くし・髻剃り・タオル・コップなど準備したり、服が汚れたときはすぐに更衣したりしている。化粧をする方に、座ってできるような環境を整えたり、誕生日に化粧品をプレゼントしたり意識できるような支援を行っている。	自立している方は自分で選んでるが、出来ない方は職員が行っている。ご家族に以前の好みなど聞き取ったりしながらその方らしいと思える支援に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りやお茶を入れたり箸を並べたり、食べる前から食事に関われるよう支援している。月に1回は外食に出掛け、皆で協力しながらフロアで調理したりしている。	準備できる方、片付けられる方など個々で違うことを認識し、その時に応じた声掛けの工夫に心掛けている。フロア調理の日を決め皆で作ることをしている。	調理は主に厨房職員が行うが、食事の準備や片付けは利用者に声を掛けて一緒に行っている。月1回はフロア調理や外食を楽しんでいて、餃子やカレーを手作りしたり、ファミレス、回転寿司、焼き肉店等に全員で出掛ける機会がある。職員も利用者と一緒に食事し、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録記入にて把握している。毎月の体重測定や定期的な血液検査などで状態の把握をしている。一人ひとりの好みがあるので、それに応じた形態で提供している。	日中の水分量が少なかった方には、夜間に多めに摂取してもらうなど1日のトータルで判断している。食事が少ない方には、どんなものだったら食すのが等試したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりのタイミングに合わせ声掛けを行い実施している。毎月、歯科衛生士のアドバイスにより口腔ケアの必要性を理解し支援を行っている。	自立してる方に対しては、磨き残しにならないような声掛けの工夫を行い口腔内が清潔に保たれるようにしている。歯ブラシだけではなくスポンジ・舌ブラシなど人に合わせ口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンに応じた誘導を行っている。リハビリから布パンツになった方もいる。	その方に応じた排泄パターンで声掛けや誘導を行っている。食事時間が一緒のため、排泄時間が重なることが多い。優先順位を考え、使用するトイレに誘導をするなど工夫している。	チェック表で排泄リズムを把握し、個々の方に応じた誘導をしている。入居時リハビリパンツを使用の方が下着で生活できるようになったり、オムツ使用の方はほとんどいない。トイレの使用が重なる時間帯は利用者のストレスにならないように誘導の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸を動かすため毎日散歩に行くなど自然に排泄があるよう支援している。訪問看護時、お腹の張りなどを確認してもらい便秘にならないよう支援している。	体を動かしたり、水分を多目に摂ったりしている。水分摂取が進まない方にはゼリー等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日あり、時間を決めず声掛けし確認のうえ実施している。声掛けの工夫を行い、週に2~3回入浴していただいている。	希望があれば毎日入る。タイミングや声掛けで入浴実施している。入居者様のペース、動きに合わせて一人ひとり支援方法を統一し入居者様の混乱がない支援を行っている。	希望があれば毎日入浴できるが概ね週2回から3回の方が多。入浴を拒否する方にはタイミングをみて誘い工夫している。シャンプー等は個々の方の好みで用意しており、入浴を楽しんでいる。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( たいよう )	ユニット名( にじ )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の表情や行動を見計らい静養などの声掛けをしている。安眠につながるよう、日中は活動的に過ごせる支援を行っている。	眠れない方にはタクティールケアを行い、安心してやかに眠れるような環境作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を共有し、いつでも確認できるようにしている。変更時は、送りノート・日報で共有している。	誰がいつ何錠服用しているかを確認できるようにしている。変更時は申し送り共有している。いつでもかかりつけ薬局と連絡がとれる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い物や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭きなどその方に合った仕事をもらっている。ドライブが好きな方多いので、ほぼ毎日ドライブに出掛けている。	好きなものを外に買いに行ったり、その人にあった支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数でその入居者様のニーズに合った外出支援を行っている。広告を見て「ここに行きたいね」の音が聞かれれば、その日に行ったり、計画したり日常的に動ける体制をとっている。	一人ひとりの希望が把握できていないが、希望があったら外食に出掛ける。お寿司は皆さんが好きなので行く機会行く機会が多い。月日日にはお墓参りに行くなど、希望があれば柔軟に動く事を心掛けている。	外食、花見、桃狩り、サーカス見学等利用者の希望や思いを聞き外出支援している。事業所周辺の散歩をすることもあるが、車でのドライブを楽しみにしていることが多いので事前に計画しているが、日常的にもすぐに出掛けられる体制ができていて柔軟な対応をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、出来るだけ入居者様本人が支払えるよう支援している。小銭の計算等、さりげない支援を行っている。	お財布は事務所で管理しているが、買い物時の支払いは入居者様にお財布を渡し支払いをしていただく。そうすることで自分で買ったことを覚えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ホームに手紙が届いたら、ご本人に渡しながら話をし返事を書いてみたり、電話があった時は、ご本人と変わり話をして貰ったりしている。	電話の要望があれば、職員が電話し入居者様に代わる。手紙のやり取りはないが、年賀状は毎年書き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は整理整頓に心掛け、清潔を保ち気持ちよく過ごせる環境作りを努めている。皆で作った作品など飾ることで話題になったり楽しい気持ちで過ごせるよう努めている。	物をあまり置かず、安全に動ける環境にしている。食堂とリビングで分けたようにしてつるぎるスペースを作っている。1Fと2Fは行き来しやすく、1Fエレベーター横にコーヒーマーカーがあり、いつでも飲めるようになっている。	玄関、廊下には利用者の作品や写真、利用者が手書きしたその日の献立が掲示され、利用者や来訪者を和ませている。1階と2階はエレベーターで行き来し、1階にはコーヒーマーカーが設置され、何時でも利用できるようにしている。トイレ、浴室も広くフロア全体も清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにあるテレビは会話のきっかけになったり、気分転換になったりそれぞれの動きに合わせ支援している。	ソファに座りテレビが観れる環境になっている。ミニテーブルがあり、真ん中に置きお茶会を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ってきていただき、自分の居場所を大切にもらっている。入居者様が動きやすく生活しやすいよう配置など考え、必要あれば模様替えなど手伝っている。	本人が使用していたものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。ベッド、タンス、寝具類、写真、人形など持ち込まれ昔懐かしい話を聞くことができる。	居室には洗面台とエアコンが備えてあり、ベッドやタンス、テレビ、人形や写真、自分で作ったパッチワークの壁掛け等それぞれの方の想いが込められた品が置かれている。居室入口には本人が見やすく、分り易い工夫をした名前が掲げている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目に入りやすい位置に、居室には表札・トイレ・お風呂など札を下げ情報を視覚に働きかけた工夫をしている。	動きやすい動線を確認し、困惑のないよう配慮している。		